

## 市民部会（市民会議）9年間の取り組みと成果

## ①取り組み

テーマ	解決手法	実際の取り組み
全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（平成22年）流域圏住民の視点から、課題と問題解決手法の検討、地域部会への問題提起・提案を行う場として市民会議が開催された。</li> <li>・（平成23年）一色干潟などの「海」の現状を知る見学会を行った。</li> <li>・（平成23年）森の健康診断に参加し、「山」の現状を知る見学会を行った。</li> <li>・（平成23年）上流から下流まで「山・川・海」を知る2日間ツアーを開催した。</li> <li>・（平成23年）国土交通省、愛知県からの情報提供を通し、今後の河川事業を学ぶ会を行った。</li> <li>・（平成23年）市民有志による市民主導の運営を提案した。</li> <li>・（平成24年）市民に加え、行政、森林組合、学識者の連携した運営を提案した。</li> <li>・（平成26年）「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の3つのテーマを抽出し、それぞれ主務担当者を設け、活動を行うこととなった。</li> <li>・（平成30年）ワークショップ形式で、流域の上下流の課題、昔と今の変化、流域市民に伝えていきたいことを流域マップに示とともに、意見のカテゴライズを行った。また、流域連携を代表する標語を作成した。</li> </ul>
ごみ・流木	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（平成25年）海部会主導で三河湾におけるごみ調査を行った。</li> <li>・（平成27年）山部会と協働して、東幡豆のトンボロ干潟周辺のゴミの現状を確認した。</li> <li>・（平成28年）海ごみ・川ごみの問題について、全国的な活動を実施している一般社団法人JEANおよび全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について、情報共有を行った。</li> <li>・（平成28年）愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。</li> <li>・（平成29年）22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場を見学した。</li> </ul>
土砂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（平成24年）国土交通省からの情報提供を通じて土砂管理を学んだ。</li> <li>・（平成27年）川部会主体の勉強会として、小渋ダムの土砂バイパスを視察し、総合土砂管理の知見を深めるとともに、土砂管理検討委員会の進め方について意見交換を行った。</li> <li>・（平成26年～平成29年）三河湾の干潟・浅瀬造成に関する行政計画や事業内容、愛知県が実施した海底ごみ・生き物調査の結果を情報共有するとともに、鳥類調査を通じて干潟や背後の土地利用の問題を共有した。</li> </ul>
木づかい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントへの参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（平成26年～平成30年）木づかいライブ・スギダラキャラバンは、流域内のみならず、名古屋や東京への出展等を通して認知度が拡大している。</li> <li>・（平成26～平成30年）流域ものさしを流域共通のアイテムとし、流域の市民に対して周知を進めている。</li> </ul>

②成果（第3回市民会議まとめの会 意見交換集約）

テーマ	手法	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
全体	WG イベント等	市民主導の会議や勉強会の実施（懇談会設立直後）		川岸の利活用の議論
		市民目線の積極的な意見交換	地域の課題の共有	参加者減少への対応
		河川改修の目的や内容の理解		
		山川海それぞれの理解・交流・情報共有		
		勉強会開催による新発見		
流域連携テーマ	ごみ・流木	奈佐の浜プロジェクト活動の実施（渥美）		地域部会（山川海）の話題・課題を把握できるシステム 市民部会（市民会議）としての流域連携テーマの議論 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動
	土砂		砂の駅構想（いかだを利用した土砂運搬） 山川海合同ツアー（勉強会）の開催（頻繁な開催）	
	木づかい	市民目線による木づかい推進の実行 奥矢作森林フェスティバル・矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭・アンフォーレ市民フェス（安城）・あそべるとよたプロジェクトへの出店（木づかい推進）		
				流域内の森づくりへの参加（間伐）

# 山部会 9年間の取り組みと成果

## ①取り組み

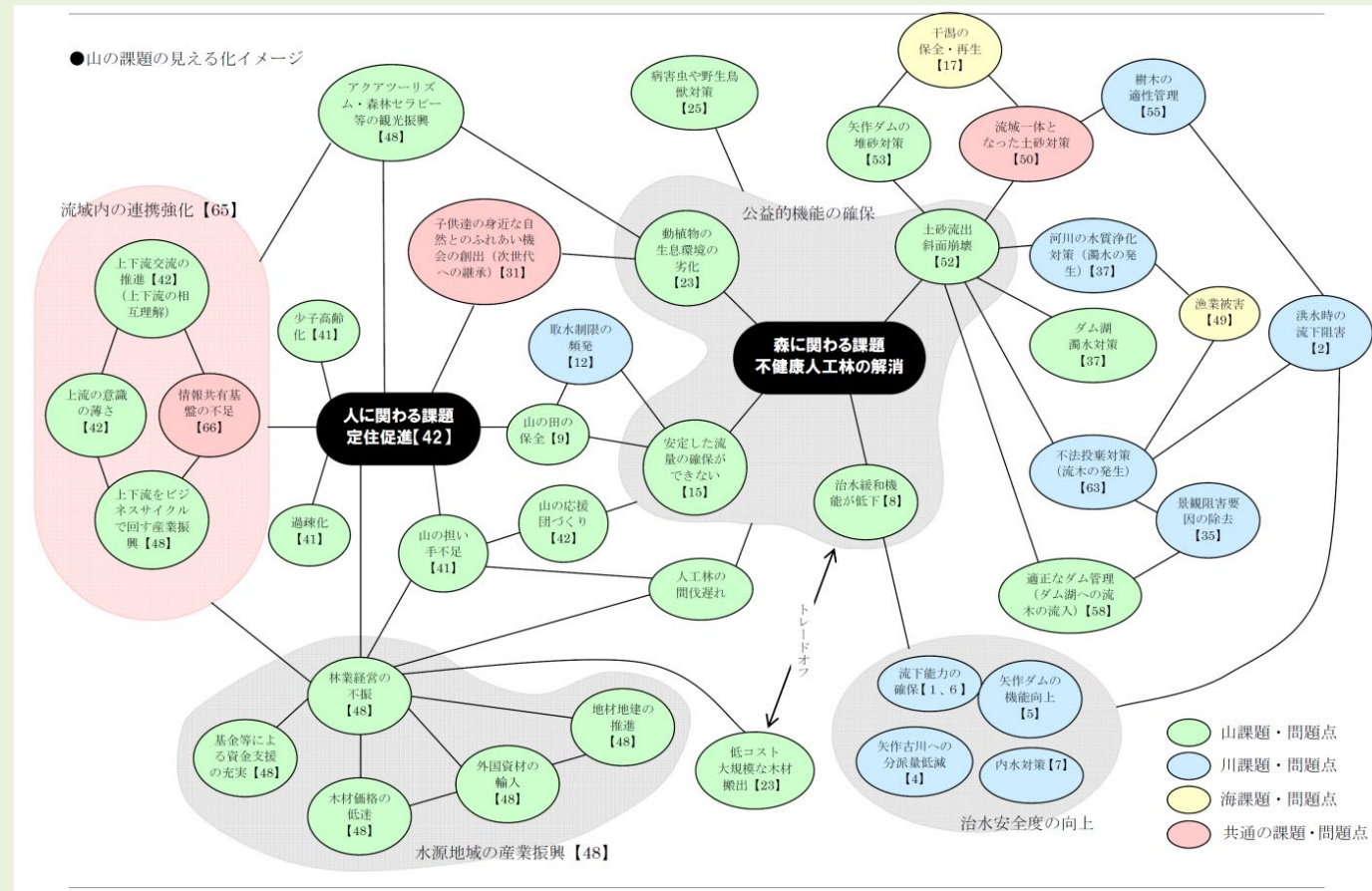
平成22年度

- 第1回地域部会の結果、山部会では「人に関わる課題」「森（人工林）に関わる課題」を当面3ヶ年の取り組みに決定
- 治水、利水、環境、地域活性化の各分野のキーワードについて、2つの課題との対応に関する意見交換
- 市民会議における山の課題抽出
- 勉強会の実施（「山の現状を知る見学会」）
- 学識者ヒアリングによる意見聴取
- 課題のマインドマップ作成
- 山の課題の見える化の整理（下図）

平成23年度

- 課題抽出・整理の流れの検討
- 山部会における意見を踏まえた出発点の共有のための整理
- 懇談会員の山川海の理解を深めるため、懇談会を立て直すための勉強会（山・川・海を巡るバスツアー）を実施

優先的に取り組む課題の抽出と検討



当初整理案

当初案の肉付け

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有		
当面の課題1 誰がやるか(人の問題)	誰がやるか(人の問題)	当面の課題2 何をやるか(森の問題)
高度経済成長	人の都市への流出 兼業化、公共事業依存	拡大造林(広葉樹からヒノキ、スギへ転換) 木材自給率低下、価格下落
現代	過疎化、高齢化 若者の仕事がない	植生遷移、水量減少(水消費型森林) 放置人工林からの土砂流出・崩壊 立木価値ゼロ以下
近未来(放っておくとどうなるか)	集落放棄 公務員のみ居住 縦割り公共事業 悪の民間業者の巣窟	公益と調和しない林業(皆伐再造林放棄) 不適切な林道・作業道・搬出路
望ましい未来像	農山村の経済的自立 若者の仕事がある 善の民間業者の再生	人工林間伐推進 土砂流出の適正化 「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の3区分
課題	山村の崩壊	矢作川流域森林管理ガイドライン未策定 データ不足、研究の遅れ
解決手法	山村再生ガイドライン策定 上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興	ガイドライン策定 モデル林の設定(土砂を流す森、節水型森林など)とモニタリング

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有		
当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)	誰がやるか(人と地域の問題)	当面の課題2 何をやるか(森の問題)
高度経済成長	■旺盛な都市開発に伴う兼業化と公共事業依存(拡大) ■人の都市への流出 ■森林行政が政策としての「弱い事確保」を重んじる(密)	■拡大造林(広葉樹からヒノキ、スギへ転換)の増加 ■木材需要対立のための木材輸入の開始 ■高度経済成長の終焉と木材自給率・木材価格の下落 ■建設ブームによる木材需要の低下が、企業も木材を積み、自動貯蔵の蓄積につながった。 ■所有者の森林管理に対する関心が低下
現代	■若者の仕事がない ■過疎化、高齢化の進行 ■集落放棄により山村単独での経済的自立が困難 ○公務員または公務員に近い形で生きている方々のみが居住(②) ○縦割りの民間業者の巣窟(③) ■経済的自立した農山村(農山村の経済的自立) ○若者の仕事がある(山村活性化に連がる雇用が創出) ○善の民間業者の再生	■立木の価値ゼロ以下 ■作業用以外の森林管理による森林資源の悪化 ■人工林の植生遷移と水質悪化(水消費型森林)による水量減少 ■河川荒廃への対応は、水消費型森林の土砂を流出させ、土砂を流出させるといふ ○放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性の増加
近未来(放っておくとどうなるか)	■集落放棄により山村単独での経済的自立が困難 ○公務員または公務員に近い形で生きている方々のみが居住(②) ○縦割りの民間業者の巣窟(③) ■経済的自立した農山村(農山村の経済的自立) ○若者の仕事がある(山村活性化に連がる雇用が創出) ○善の民間業者の再生	■公益と調和しない林業(皆伐再造林放棄)による森林機能の喪失 ■不適切な林道・作業道・搬出路の敷設による森林環境の悪化 ■人工林間伐遅れによる森林機能の回復 ○森林機能の回復を通じた土砂流出の適正化
望ましい未来像	■山村の崩壊から山村の再生への転換 ■山村再生につながる森林管理を含めた担い手などの「人づくり」が必要 ■山村再生に資する経済サイクル確立のための「仕組みづくり」が必要 ■持続可能な山村再生ガイドラインの策定(⑤、⑥) ■上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興(山村再生ガイドラインの施策の一側)	■「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の区分による優れた環境と機能をもつ森林形成 ■公益と調和した育づくりの実現 ○流域で統一したガイドラインが必要(矢作川流域森林管理ガイドライン未策定)(④) ○データ不足、研究の遅れによる神話の流布と実践できない山と川の関係(③) ■「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の区分による優れた環境と機能をもつ森林形成 ■公益と調和した育づくりの実現 ○流域で統一したガイドラインが必要(矢作川流域森林管理ガイドライン未策定)(④) ○データ不足、研究の遅れによる神話の流布と実践できない山と川の関係(③)

次ページの「山部会の出発点の共有」(平成24年5月)

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく  
社会背景の変遷と  
望ましい将来像

STEP1

過去と現在を  
知る

理解と情報共有を  
促進する

右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る  
→ 市民企画会議  
→ 勉強会で対応

実現に向けた  
課題と解決手法

STEP2

未来像実現に向けた  
課題と解決手法を  
考える

情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討

→ 市民会議  
→ 地域部会で対応

STEP3

できることから  
活動を  
実践する

人と山村

森林

<p>高度経済成長前から後へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自給的経済、自立、自治、誇りがあった。</li> <li>●百業をやっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薪炭林施業が行われていた。</li> <li>●最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。</li> <li>●藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。</li> </ul>
<p>現代</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●若者が中下流の都市へ流出した。</li> <li>●拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がなくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。</li> <li>●国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。</li> </ul>
<p>近未来 (放っておくとどうなるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニティが崩壊する。</li> <li>●国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。</li> <li>●管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。</li> <li>●林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再生林の放棄が起こり、森林の水土保持機能が喪失する。</li> <li>●不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。</li> </ul>
<p>望ましい 未来像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。</li> <li>●自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらししてくれる森林。</li> <li>●木材生産を主目的として管理する森林と、水土保持機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。</li> </ul>

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生(担い手作り)から!

当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)

課題	●現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。
解決手法(例)	●既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定やエターンした若者のミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。 ●上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興(流域フェアトレード)の推進(中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など)
役割分担	市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために  
先ず“人づくり”が必要  
そのうえで“森づくり”にも  
取り組む必要がある。

担い手づくり事例集イメージ

山村再生担い手づくり事例集
成功事例1
成功事例2
失敗事例1
.....

当面の課題2 何をやるか(森の問題)

課題	●流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。 ●データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。
解決手法(例)	●「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定 ●モデル林の設定とモニタリング →ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。
役割分担	市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定

①取り組み

	テーマ	解決手法	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人と山村	流域圏(山村再生)担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村再生が重要。先ずは人づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>山村再生担い手づくり事例集の対象の検討(農林業の担い手)</li> <li>作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査先、調査者の決定、調査方法に関する意見交換</li> <li>調査マニュアルの策定</li> <li>調査スケジュールの決定</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅰの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川部会、海部会との連携検討</li> <li>事例集メーリングリスト立ち上げ</li> <li>取材スケジュールの検討</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅱの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取材の対象を文化的な担い手にも拡大</li> <li>過去3ヶ年の取材先活動拠点の位置図を作成</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅲの発行</li> <li>事例集マップの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか?プロジェクトの発行</li> <li>事例集交流会の開催計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例集交流会の開催(根羽)</li> <li>川部会との協働</li> <li>取材対象の拡大に伴う「山村再生」から「流域圏」への名称変更</li> <li>流域圏担い手づくり事例集Ⅰの発行</li> <li>事例集交流会の開催計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例集交流会の開催(佐久島)</li> <li>川部会との協働</li> <li>流域圏担い手づくり事例集Ⅱの発行</li> <li>事例集マップ更新</li> </ul>
	山村ミーティング	山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者ミーティング(1ターンなど)を矢作川流域山村ミーティングに改称</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上矢作における山村ミーティングの試行(林業ターン同士の交流)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>串原農林と根羽村森林組合の意見交換(若者どうし)に関する情報共有</li> <li>森林組合の若手(岡森フォレストアスターズを含む)の交流検討</li> <li>流域フェアトレードの概念の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道中川町の第2回きこりまつりの周知と矢作川流域で展開する場合の課題の整理</li> <li>きこり祭に代わるイベントの検討</li> <li>他のテーマとの連携模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの準備</li> <li>矢作川感謝祭(仮称)の流域圏恒例行事化に向けた検討</li> <li>廃止された足助もみじまつりに代わるイベントの模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの始動</li> <li>矢作川感謝祭への流域圏懇談会としての参加(実行委員として参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗報告、山林管理のアンケートの実施・分析(岡崎森林組合組合員)</li> <li>矢作川感謝祭への参画、流域の全ての森林組合の参加、東幡豆漁協の参加</li> </ul>
森林	森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>森づくりガイドライン作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> <li>森づくりの指針の検討(旧宮崎村の森づくりのあゆみ、市民の森づくりへの参加・森林水文学の市民講座開催)</li> <li>流域地方自治体の取り組みの周知(岡崎市水循環プラン・岡崎市森林整備ビジョン、豊田市・豊田森林組合の森づくり)</li> <li>東京都水道水源林の管理に関する情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域を構成する3県に対する森づくりガイドライン策定趣旨説明</li> <li>関係行政機関の参加</li> <li>関係行政機関が参加する森づくりWGの開催</li> <li>現況図、地区別森林基礎データの情報収取及び整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や市民と協働した森づくりに関するデータ収集</li> <li>矢作川の特徴的な森づくりについてのカタログ化の方針周知</li> <li>森の健康診断10年間の振り返り周知(本テーマにも関連する)</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知(岡崎市の森づくり、森林環境税の導入をめざす他府県の目的(使い途)の共有)</li> <li>広島土砂災害から考える矢作川流域の課題の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の水循環基本法の制定について情報共有</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知(豊田市の森づくり構想の見直し計画、岡崎市の水循環推進協議会の役割)</li> <li>近自然森づくりの周知と導入検討</li> <li>流域市村の間伐面積の推移の周知</li> <li>流域内での生態系サービスの考え方と活用事例の検討</li> <li>広島土砂災害の要因検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域地方自治体の取り組み周知(豊田市の森づくり構想の見直し計画、岡崎市の水循環に創造プランのうちの水量に関する施策の進捗報告、大阪府の森林環境税の使い途)</li> <li>森づくりガイドラインの策定にむけた素案検討</li> <li>森林環境税に関する国の方針の周知</li> <li>九州北部豪雨の現地視察結果の周知(森林管理)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市森林課の初代課長の故原田裕保氏の実績について情報共有</li> <li>国からの森林譲与税に対する各地方自治体の対応方針についての情報共有</li> <li>国の新たな森林管理システム、森林づくりガイドブック発刊に関する情報共有</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知(新・豊田市100年の森づくり構想、岡崎市の水循環協議会の実績)</li> <li>流域市村の間伐面積の推移の周知</li> </ul>	
	木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> <li>大蔵建設大蔵氏より、伊那谷の森(木)で家をつくる取り組みの紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインのターゲットのためのプレーストーミングの実施</li> <li>ライフステージ別に整理されたアタック表の活用</li> <li>ガイドライン作成に向けたパートナーの決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成方針にある市民目線の重要性の認識、懇談会員の推薦によるパートナーの決定</li> <li>ガイドライン作成方針の共有(「さあ~しよう」のフォーマット作成)</li> <li>スギダラ矢作川支部設立に向けた意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木のある暮らしのアイテムの検討(動く木のおもちゃ)</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>プレイスメイキングの効果検討</li> <li>流域ものさしの活用検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた目標と項目周知</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>奥矢作森林フェスティバルへの参加</li> <li>第6回全体会議における「流域ものさし」の配布と私の流域物語の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた取材先等の検討</li> <li>放棄竹林の利用検討</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>労働参加型プレイスメイキングの実績周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた進捗状況の周知</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績報告</li> <li>流域の森林組合の協働に関する情報共有</li> </ul>
テーマ外の討議事項			<ul style="list-style-type: none"> <li>山部会懇談会スタイルの検討(回数、開催場所、宿泊の有無)</li> <li>川部会、海部会との連携手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員を選出による座長、副座長の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民企画会議で議論された3つのテーマの周知                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①ごみ・流木 ②土砂 ③木づかい</li> </ul> </li> <li>日本全国スギダラクラブとのディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域圏に特徴的な森林と巨樹・並木の抽出及び流域マップの作成</li> <li>小学生による源流から河口までの自転車走破の周知及びイベントへの展開検討</li> <li>海部会との合同部会の開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワーク位置図の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山川海の合同部会の開催</li> </ul>
フィールドワーク			<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】グリーンハウス森沢、モデル住宅ほか</li> <li>【恵那】上矢作、串原の森づくり・林業</li> <li>【岡崎】中部猟友会、優良施業林業地</li> <li>【豊田】あいちの森と緑づくり事業地(間伐地)、加塩地域、あさひ製材協同組合、豊田森林組合木材センターほか</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】木の家、木の駅プロジェクト</li> <li>【恵那】福寿の里モンゴル村</li> <li>【豊田】トヨタ自動車テストコース、森林組合新庁舎の</li> <li>【岡崎】宮崎財産区、巴山・分水嶺、長坂100年長伐期林、ミツマタ長伐期林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【恵那】結の炭家ほか</li> <li>【豊田】森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】切山の杉、乙川上流域(毛呂川、西風橋)、千万町町地内の人工林</li> <li>【西尾】とんぼろ干潟</li> <li>【流域圏外】近自然森づくりの荒山林業への視察、根羽杉を利用した家族風呂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】明治用木水源かん養保安林、恵南豪雨における沢抜け箇所その後</li> <li>【豊田】足助きこり塾の森づくりと活用、あさひ森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】ウッドデザインパーク、間伐材利用コンクール</li> <li>【流域圏外】神奈川県山北町の森林環境税を活用した環境保全の実態把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】信州大学研究フィールド、帯状間伐の実施状況</li> <li>【恵那】木の駅・薪の駅の視察、茅の宿とみだ</li> <li>【豊田】ちんちゃん亭(農地山林利用)、あさひ森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】ぬかた体験村</li> <li>【流域圏外】長野県飯田市の天竜川における竹林管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】水源の森(茶臼山山麓)山地酪農</li> <li>【豊田】神殿の森づくり会議の管轄エリア(下山地区)</li> <li>【岡崎】みかわエコ薪・貯木場、おかざき森の健康診断報告会</li> </ul>

②成果（第10回山部会まとめの会 意見集約）

課題	テーマ	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
人と山村	流域圏担い手づくり事例集	<ul style="list-style-type: none"> <li>107団体への取材を行い、6冊の事例集を発刊</li> <li>取材者と取材団体のつながり、取材団体同士のつながりの構築（例：串原林業とClearWaterProject）</li> <li>担い手の活動からの刺激、未来の可能性の把握</li> <li>流域の担い手の新発見（例：根羽村天下杉）</li> <li>イベントを通じた事例集の拡散</li> <li>学校教育の現場における事例集の活用（例：人間環境大学の農業体験に活用）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域再生の起爆剤としての役割</li> <li>大学生の取材への参加</li> </ul>	
	山村ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域林業担い手100人ヒヤリングの遂行（林業従事者の現状の把握）</li> <li>矢作川感謝祭の開催と参加（主催者・出展者両面）</li> <li>全国的な林業に関するイベントの抽出と情報共有（北海道中川町のきこり祭等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きこり祭の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他 国産材の流通・加工・販売の共有</li> <li>流域住民への発信</li> <li>流域内での自治体の参加</li> <li>三河の連携の創出</li> <li>流域内での自治体の連携の創出</li> <li>三河の森林管理の共有</li> <li>河川整備計画と森林の管理の共有</li> <li>国の省庁の参加・県市村の意向を把握</li> </ul>
森林	森づくりガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>森づくりに関する国、地方自治体の動きの共有</li> <li>木の駅プロジェクトの流域全体への拡大（全国的なモデル）</li> <li>流域地方自治体の間伐面積の可視化</li> <li>荒山林業への視察による近自然森づくりの導入検討</li> <li>自治体による水道水源モニタリングの実施（豊田市）</li> <li>自然災害と森づくりの関係の情報共有</li> <li>低コスト林業</li> <li>流域マップ（矢作川流域圏に特徴的な森林と巨樹・並木）の市民レベルでの活用</li> <li>「根羽」「恵那」「豊田」「岡崎」の地域持ち回りのWGによる現状把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>源流域生態系の広域評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「土砂を流す森」モデル林の設定</li> <li>自然生態系と人間管理生態系の最適配置についての検討</li> </ul>
	木づかいガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林組合同士のつながりの創出</li> <li>奥矢作森林フェスティバル・矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭・アンフォーレ市民フェス（安城）・あそべるとよたプロジェクトへの出店（木づかい推進）</li> <li>下流部の情報誌（例：耕Life）を利用した上流域の活動周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域内の人材育成システム</li> </ul>	
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>流域内の主な森林・巨木の抽出と可視化（流域マップ）</li> <li>大学生の学びの場の提供</li> <li>小学生の上流から河口までの自転車を使った旅の周知とツールとしての可能性検討</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>市民への流域バスツアー、サイクリングの試行</li> </ul>

# 川部会 9年間の取り組みと成果

## ①取り組み

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
<p>●上下流の課題</p>	<p>生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）</p>	<p>本川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題と解決の方向性の検討</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成22年）矢作川をフィールドとして研究、活動する専門家や団体を講師とした勉強会を開催した。</li> <li>（平成23年）矢作川の源流から海までの全ての視察するバスツアーを開催した。</li> <li>（平成24～27年）矢作川河川整備計画、豊田市矢作川河川環境活性化プランなど矢作川に関する河川整備事業、整備計画に関する勉強会を開催した。</li> <li>（平成26年）久澄橋下流の河道内の地形状況について、大同大学、国交省による現地測量を実施した。</li> <li>（平成23～平成28年）白浜工区の河道掘削箇所を題材とした河川事業の在り方について意見交換を行った。また、大同大学による洪水規模に応じたモニタリングが行われ、WGにおいて情報共有が図られた。</li> <li>（平成26年）矢作川漁協との意見交換が実現し、現状と課題の情報共有が進展した。</li> <li>（平成24～25年）矢作川の土砂問題に関する勉強会を開始し、土砂管理検討委員会に向けての提案事項となる「矢作川の河川環境の方向性」についてとりまとめた。</li> <li>（平成27年）小渋ダムの土砂バイパスを視察し、総合土砂管理の知見を深めるとともに、土砂管理検討委員会の進め方について意見交換を行った。</li> <li>（平成26～29年）加茂川の段差改善を目的として、魚道の設置を検討し、自然石による棚田式魚道を設置された。WGではその後の生き物の生息状況について情報共有を行っている。</li> <li>（平成29年～平成30年）矢作川研究所がアユの生息環境の復元を目的として取り組んでいる阿摺ダム下流の実験状況（河床環境の改善）について現地視察を行った。また、同場所の生物相について愛知工業大学の研究結果を周知した。</li> </ul>
	<p>生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題）</p>	<p>家下川モデル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題と解決の方向性の検討</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成25～平成27年）水位やゲート敷高等の高さなどの移動阻害箇所の測量及び現地調査を実施するとともに、各施設の管理団体を整理し、段差の解消について検討を実施した。</li> <li>（平成23～25年）「草の植え付け」「水田魚道」「越冬マス」「ブロック水制・堰（越冬場所）」などの設置効果について情報共有した。</li> <li>（平成26～平成29年）家下川湛水防除事業（上郷2期地区）の概略設計の検討状況について意見交換を行い、排水機場周辺の浚渫など生き物の棲みかか配慮した施工が行われた。また、その後の状況について情報共有を行った。</li> </ul>
<p>●地先の課題</p>	<p>地先の課題</p>	<p>地先モデル：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（仮）専門家リストの作成</li> <li>個別課題の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（平成24年）家下川合流点から矢作古川分派点と乙川の現地調査を行い、活動団体や管理者が抱える課題や活動内容について、情報共有した。</li> <li>（平成25～平成26年）活動団体へのヒアリングを継続するとともに、活動団体を掘り起こし、広く活動団体の状況を把握するため、新たにアンケート調査を実施した。</li> <li>（平成25～平成27年）活動団体リストを概ねまとめ終わり、活動団体マップの作成に着手した。</li> <li>（平成26年）専門家リストのたたき台を作成することができた。</li> <li>（平成29年～平成30年）流域圏担い手づくり事例集をWGで取り上げ、協働して取り組むことになった。取材先の選定にあたっては、過去に作成した専門家リストを活用した。</li> </ul>

②成果（第10回川部会まとめの会 意見交換集約）

テーマ	活動	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
生き物の棲みやすい川づくり（上下流問題） 多様な物理環境と生物生息環境の創出	本川モデル	勉強会や現地観察調査の実施 河川改修による水域への影響を考える意識の芽生え 矢作ダムの効果影響の現地視察の実施 河川変動シミュレーション手法の理解 水質調査や水門観測の実施と発表 白浜工区でのヤナギ・オオカナダモの調査 総合土砂管理に関する勉強	各課題に対する川部会を主導となる活動 生きものの棲みやすい川づくりに関する議論 矢作川本川の各地点評価 土砂に関する議論からの望ましい像の提案	流域の化学物質の移動についての議論（一部合同部会で実施） 明治用水や中電との率直な意見交換 農業・工業・生活用水についての議論 水域外と水域の関連性の理解 河川環境改善実験による改善策の作成 川沿いを歩きながらの議論 土砂管理に関する取り組みの具体化 本川内の地点別評価
	家下川モデル	本川と支川の課題解決（加茂川の段差解消や家下川湛水防除事業に貢献） 家下川を部会員で歩くことによる状況把握	懇談会が主体となる環境改善手法の具体化 岩本川の小さな自然再生（市民主体による取り組み：新時代のモデル）	合流点の様子・支川の合流点の少し上流部分の形態評価 家下川モデルとしての水系の河川情報の集積（生物多様性の保全・川利用）
地域の人々と川との関係を中心とした、地先の課題（河川空間の利用・保全のあり方）	地先モデル	山部会と協働した成果（流域圏担い手づくり事例集） 流域管理の勉強会に東京の学生・教師の参加 豊田東高校の生徒との現地調査（白浜工区水質調査） 小浜ダム・矢作ダムでのエクスカージョン実施 市民団体、漁協、国交省などの関係者と話し合う場の提供	メンバーの拡大、市民の議論参加の拡大 堤防の全川踏破 県市の河川管理者、電力会社の参加	ごみの問題等の課題の解決に向けた市民への啓発 矢作川への関心向上のための新たな取り組み、観光業界との連携など 流域の諸政策行政縦割りの見える化 地先の活動内容の把握・評価 河口周辺の課題解決に向けた取り組み

他部会との協働（特に海部会）・課題に対する川部会主導の行動



# 海部会 9年間の取り組みと成果

## ①取り組み

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
	ごみ・流木の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>干潟・水辺のゴミ、流木対策検討に向けた調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成25年) 流木、人由来、生物影響ゴミの3種類を調査し、発生源を検討した。</li> <li>(平成26年) 西の浜と佐久島で他団体や山・川部会メンバーと連携してごみ・流木調査を実施し、漂着ごみの実態把握と問題意識の共有化を図ることができた。</li> <li>(平成27年) 山部会と協働して、東幡豆のトンボロ干潟周辺のゴミの現状を確認した。</li> <li>(平成28年) 海ごみ・川ごみの問題について、全国的な活動を実施している一般社団法人JEANおよび全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について、情報共有を行った。</li> <li>(平成28年) 愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。</li> <li>(平成29年) 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場を見学した。</li> </ul>
●海の生き物にとりまく課題	豊かな海の生物調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、学識等の様々な調査より学習・分析する。</li> <li>三河湾のアサリの資源回復に関する現状について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成25年) ハンドブック等を活用して、東幡豆天然干潟、西浦地区人工干潟の2地点において、生き物調査を実施した。</li> <li>(平成26年～平成29年) 三河湾の干潟・浅瀬造成に関する行政計画や事業内容、愛知県が実施した海底ごみ・生き物調査の結果を情報共有するとともに、鳥類調査を通じて干潟や背後の土地利用の問題を共有した。</li> <li>(平成27年～平成29年) 山部会と協働して、干潟の試験造成後の生物相の変化を把握した。</li> <li>(平成29年) 海の栄養塩の問題に関する最近の話題として、流入負荷削減と海の水産資源の関係性について学んだ。</li> <li>(平成29年) 八郎潟や油が淵での水質浄化に関する研究事例と水質浄化対策の技術的課題について情報共有した。</li> </ul>
	豊かな海の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成30年) アサリの減少原因を追究されている吉田漁業協同組合の石川組合長より、三河湾の現状について報告いただいた。</li> <li>(平成29年～平成30年) 合同部会では、三河湾の現状を山部会、川部会に対して情報共有を行った。</li> </ul>
	海と人の絆再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成24年) 水辺の魅力（利用状況）や生活拠点と水辺・干潟との関わり等、改善課題の発見を目的に海地域一帯を視察した。</li> <li>(平成26年) さまざまな場面でのアンケート調査等を通じて、子どもや保護者の海に対する意識やニーズを把握することができた。</li> <li>(平成27年) 山部会との合同会議では、漁業者との懇談を行い、水質や砂の問題や新たな担い手の問題を検討・共有した。</li> <li>(平成28年～平成30年) 流域のイベントへの参加によって、三河湾（海）の生き物が身近なものとなった。</li> </ul>
●海と人の課題	干潟・ヨシ原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>川と海の連携による干潟再生を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成23年) 一色干潟、人工干潟、矢作川干潟再生箇所、矢作川浄化センターを視察した。</li> <li>(平成25年) 矢作川河口干潟の生き物調査及び矢作ダム砂の実態調査を実施した。</li> <li>(平成26～平成27年) 矢作ダム砂を活用した干潟造成の試験施工について、関係機関の協力を得て実現した（H27.3.10矢作ダム砂の投入）。</li> <li>(平成27年～平成29年) 干潟の試験造成後の生物相の変化を簡単な調査を行いながら意見交換を行った。</li> </ul>

②成果（第10回海部会まとめの会 意見交換集約）

課題	テーマ	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
海の生き物をとりまく課題	ごみ・流木の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会を巻き込んだごみの現状把握と問題提起</li> <li>田原海岸でのごみ拾いの実践</li> <li>ごみ問題を通じた流域圏のつながりの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工ごみと栄養塩に変わるごみの区別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会との認識共有</li> <li>問題の構造の共有からの解決策への発展</li> </ul>
	豊かな海の生物調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査手法の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他部会を巻き込んだ調査</li> </ul>	
	豊かな海の再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同部会でのアサリの不良に関する情報共有と原因に関する議論</li> <li>合同部会等で三河湾の問題の他部会への情報発信</li> <li>アサリの問題の把握で山・川・海のつながりを実感</li> <li>矢作ダム土砂投入実験の実施・事後評価（貝類・鳥類の把握）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム土砂有効利用についての他部会との協議</li> <li>栄養塩類 N-P の問題理解による管理放流の開始</li> <li>海のあるべき姿に関するさらに深い協議</li> <li>栄養塩管理に関する他部会との論議（解決手法）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山・川・海を通じた海の問題の解決に向けた他部会との意見交換</li> <li>「透き通った海≠豊かな海」という情報の周知</li> </ul>
海と人の課題	海と人の絆再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>奥矢作森林フェスティバル、矢作川感謝祭への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陳情できるような組織づくり</li> <li>国・県等への働きかけ</li> </ul>	
	干潟・ヨシ原再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模な人工的な干潟での生物相の回復とその後の低下についての情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム土砂投入実験の範囲拡大</li> </ul>	

行政・市民・研究者間での議論を通じた海の問題の共有

海部会が主導となる活動